

加茂川における水難死亡事故時系列

事案の概要	(1) 学校法人ロザリオ学園西条聖マリア幼稚園は、お泊り保育として平成4年から毎年利用（内、3回は中止）していた西条市中奥1号25-1所在の「石鎚ふれあいの里」施設へ、平成24年度のお泊り保育として平成24年7月20日午後2時15分ころ園長以下8名が引率する年長園児31名が赴いた。
	(2) 同日午後2時45分ころ、石鎚ふれあいの里前の2級河川「加茂川」で引率教員の監視のもと園児に水遊び等させた。
	(3) 同日午後3時30分ころ、水遊びを終わりにして園児を川から上げようとした際、いきなり上流から茶色の水が流れて来た。水の流れは速く水量も多くなつたので急いで園児を河原や岸に引き上げていたところ、越智及び園児4人（吉川慎之介君、　ちゃん、　君、　ちゃん）が流され、その内、3人は負傷（軽傷）するも救出したが、吉川慎之介君にあっては救出することができず死亡したものである。
日 時	内 容
H24, 7, 20 13:00	○ 年長園児31人は西条聖マリア幼稚園集合。出発式実施 ・寺西は、当日出発前の職員室で越智から「川の下見」を頼まれ、現地到着後、下見をすることになる。
13:15	○ 幼稚園を出発し、JR 西条駅の路線バス乗り場へ向かう。 ・越智・篠田が園児とともにバスに乗車、他の教員は乗用車で行く。
13:33	○ 西条駅より石鎚ロープウェイ線バスに乗車出発。 ・園長は、自分の車で園児の荷物を積んで園を出発。 ふれあいの里に着いたときは、まだ園児達は着いておらず、荷物を降ろして受付をしている時園児達が着き、受付をしていた職員に挨拶したが、職員からは「水に注意するよう」等の話はなかった。
13:45 (20~30分)	○ 寺西が「石鎚ふれあいの里」へ到着し、水着に着替え、川の下見を実施。 ・園長と村上に下見に行くことを伝えた。 ・下見の目的は、川の中に入り、滑りやすい箇所、水深等を調べるため。 ・階段を降りて、川の中をジグザグに上流に向かって下見をし、帰りは河川敷を通って下流方向へと下見を行う。 ・下見終了後、越智と村上に、「階段下の所は滑りやすい、例年水遊びをしているところは、壁際が深くなっているところがある、川の上流の方で遊んではど

	うか。」と報告した。
14:15	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園児を乗せた路線バスは、石鎚ふれあいの里近くのせとうちバス「千野々」停留所に到着。
14:25	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園児は、徒步にてふれあいの里に到着（現地も晴れており、予定通り実施） <ul style="list-style-type: none"> ・園児は水着に着替え、施設前で準備体操をして、越智が注意事項を話す。
14:45	<ul style="list-style-type: none"> ○ 石鎚ふれあいの里前の2級河川「加茂川」に園児を連れて行き、引率教員監視のもと園児に水遊びをさせる。（14時59分から泳ぎ出す。） <ul style="list-style-type: none"> ・川へは、階段の所でサンダルを脱ぎ、滑りやすい石の所を踏まぬよう、越智を先頭にしてグループ順（ピカチュー、リボン、ほし、さくら）に並ぶ。子供の間に教員が付き添い、各教員が引率の元、川に入り寺西が下見をした上流（上流石段の南側）の方へ行ったが、当初下見で遊ぼうと予定していた川の上流方面は浅いものの、足元が滑りやすく子供が転んで頭部などの怪我の恐れもあると判断し、もう少し下流の水深が大人の膝程度の所へ移動した。 ・ふれあいの里側の壁際は少し深い所があったので、園長が下流側、その上流に別宮、篠田、上流側に越智が立ち、その約10mの範囲で遊泳するよう教員（村上、藤井、石川）がその区域にそれぞれ付き添い遊び始めた。教員の立ち位置は子供達の動きにより変化。 ・寺西は水に入らず、岸で、微熱のある伊藤渚々美を見ていた。 ・川では、おたまじやくしを探したり、石積みをして遊ぶ子供、教員が手を引きバタ足で水遊びをしたり、水を掛け合ったりする子供、壁に登っている子や、川岸から飛び込んでいる子供が見られた。
15:29	<ul style="list-style-type: none"> ○ 村上は一足先にスイカ割り準備のため岸の上に上がる。（時間は藤井の携帯で当時確認）
15:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同時刻頃、越智が水も冷たく、寒そうな子供もいたので、予定時刻より15分早いが、次の予定であるスイカ割りの行程へ移ることにし、「上がりましょう」と教員に伝え、園長を先頭に、それぞれの場所からふれあいの里側の岸へと教員引率の元移動を開始した。 <p>▼ 越智の号令で、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岸近くにいた「　き君、　は君、　：君、　ちゃん」の4名が岸に上がる。間もなく上流に茶色い水が見えた。 ・越智は、号令後岸に上がる時、上流側の階段より上方で茶色い水がはね、はねた場所あたりに、ふれあいの里の人1名が上流から下りてきているのを見た。その人から注意喚起はなかった。「おかしい。」と思い、子供達を岸へと急

	<p>がせる。直後増水し始める。越智は、　　ちゃん、　君、　　君、　　ちゃん、　　ちゃんを連れて階段下に行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園長のすぐ後方から川を渡っていた別宮が、園長と、ふれあいの里に来ていた利用者4名の内2名と共に、　　君、　君、新名航太郎君、　　ちゃんの4名を岸に上げた。 ・越智は、別宮に続いて川を渡っており、その周辺には　　ちゃん、慎之介君、たかや君、　　ちゃん、　　ちゃんの5名がいた。階段から80センチ程の所で、　　ちゃんは別宮が岸に引き上げた。 その後、越智と園児4名（　　ちゃん・吉川慎之介君、　　君、　　ちゃん）の計5名が一緒に下流に流された。 ・越智と4名の子供は、岩にぶつかりながら流された。越智が　君を近くの岩の上に押し上げた後、再び流され深みに入り、その時、越智の手から未花ちゃん、慎之介君が離れた。 ・中洲から篠田と先頭で渡りかけていたやまと君、　君（　君）、む　君、　君、　ちゃん、　ちゃん、　ちゃん、　ちゃんの8名と寺西を挟み、　ちゃん、　君の2名、藤井と一緒に　ちゃん、　君の2名の合計12名は、流れも速くなり、増水したので、篠田は、後ろから来ていた教員や子供に、中洲の方へ戻るよう声をかけ、引き返し始めた。別宮が「子供が流されたから行って」と叫び、篠田は、2人の子供が流されて行くのを発見し、持っていたカメラを藤井に渡し、その場から直ぐに追いかけた。
15:40	<p>○ ふれあいの里の利用者が、警察・消防への通報とふれあいの里スタッフを呼びに向かってくれた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越智は、　　ちゃんの水着を持ち、水面に顔が出るように差し上げつつ泳ぎ浅瀬に着いた。 ・子供2名が、急流に流されていくのを見た篠田と寺西が、岸から　　ちゃん、慎之介君を追いかけ、上流に居たふれあいの里のスタッフと園長も一緒に後を追いかけた。 ・藤井は、岩に登っていた昂矢君に「動かぬよう」声をかけた。 ・藤井は、浅瀬に着いた　　ちゃんと越智を岸に引き上げ、その後、岩の上にいた昂矢君の姿がなく、川を見たら流されており、川に入り引き上げ助けた。 ・スイカ割りの準備をしていた村上が、走って川へ降りると既に9名の子供が岸に上がっており、石川と　君、　君、　ちゃん、　ちゃん、　ちゃん、　ちゃん、　ちゃんの6名が岸から約1.5メートル程離れた大きな岩付近で石川につかまり救助を待っていた。 ・村上がり、石川にしがみついている6名の子供を励まして救助を待っている所へロープを持って、ふれあいの里のスタッフが駆けつける。ロープと浮き輪を持

- ち、階段より少し上流から中洲方向へとロープを渡し、村上とふれあいの里の利用者でロープを引き子供達を引き上げた。
- ・ 6名を救助後、村上は幼稚園へ電話し、「お泊り保育で事故が起こり、保護者の電話番号を知りたいので探して欲しい」と伝える。(園児名簿は持参していたが越智に預けており、探せなかつたため園へ電話したが、その時の時間は不明。)
 - ・ 藤井は、君、ちゃんと共に、中洲の安全な場所で救助を待つ 12 名の子供達の側に付き添い励ましつつ、救助を待っていた。
 - ・ ちゃん、慎之介君の後を追っていた篠田は、数十メートル先を流れて行くのを目で追いながら、「ちゃんが岩につかまっていること」、「慎之介君の姿が岩につかり立ったように見えたが、再び激しい流れに流され姿が見えなくなつたこと」を確認する。
 - ・ その後、篠田は一旦川の中に入るが、木ぎれが多く視界も悪く、足元の水流は流れもきつく足をとられそうになり、再び川から上がり 2 人を追いかける。その内、すとんと慎之介君の姿が見えなくなり、「ちゃんが岩につかまつたのを確認する。ちゃんは、「ひとみ先生、早く来て。」とずっと叫んでいて、「行くから、絶対手を離さないで待って。」と声をかけつつ、前に進む。
 - ・ その頃、後ろから来た園長が、「私が行く」と言って、壁伝いに歩き始める。その直後、駆け付けたふれあいの里のスタッフに、篠田から「ちゃんを助けて下さい。」とお願いする。そのスタッフはちゃんの元へ泳いで行き、また、後から浮輪とロープを持ったスタッフと共に教員 3 人もロープを引き救出した。その後すぐに篠田は、スタッフ 2 人にあと一人慎之介君が見えなくなったことを伝え探してくれるようお願いする。その後、ちゃんに自分の上着を着せ、背負ってみんなのいる中洲へ戻った。
 - ・ 越智は川沿いの道路から、スタッフ 2 名は岸から慎之介君の姿を捜索中、スタッフが慎之介君を発見(目測 400 メートル下流)し応急措置をした。スタッフが、中洲にいた教員に向かって救助を求めていた。
 - ・ スタッフ 2 名は、慎之介君を発見して、教員に向かって救助を求めていた。教員は、グランドに到着している救急隊を呼ぼうと岸へ叫んで伝えた。
 - ・ 園長は、越智と子供達が流されたのを見て、下流側の階段からしばらくして川に飛び込んだが、流れが強く、誰も助けられないまま中洲側についた。同所から下流側の岩に掴まっている女の子 1 人(後で、ちゃんと判明)が見えたので、岩の上を走ってちゃんの方へ行った。中洲の端の所の岩に篠田と寺西(ちゃんから約 20 メートルの所)がおり、園長は助けようと川の中に入り 7~8 メートル行ったころ、ふれあいの里のスタッフの 1 人が駆けつけてくれ、ちゃんの所まで泳いで救助に向かうと共に、後から浮輪・ロープを持ってきたスタッフと共に教員 3 人(園長・篠田・寺西)はロープを引き救助した。
 - ・ 石川は、ふれあいの里側の岸に上がっていた子供の人数確認をして、岸に

16:30	<p>上がっていた 15 名を、一般の利用者と共に広場まで誘導し、入室は石川一人で行った。</p> <p>そして、子供を一つの部屋に集め、怪我などの確認をし、着替えを済ませ、気持ちを落ち着かせて室内で過ごした。</p> <p>※男の子は、中洲に取り残されている子供の心配をしていたが、戸惑う様子は見られず、室内で明るく過ごしていた。</p> <p>※女の子は、動搖している子もあり、なるべく川の話はせず、明るく楽しい話題で気持ちを落ち着かせていた。じょんけんや抱っこをして過ごしたことで表情も和らいできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越智は、1キロ程下流に下がり捜索していたが、警察の方から見つかったことを知られ、警察の車に乗り現場に行く。川に降りて行こうとすると「後は、警察と消防に任せなさい。」と言われ、自分が行くと急を要しているから邪魔になると思い、川に降りることを断念する。その後、事情聴取中、道路側に担架で運ばれ救急車に乗せる時、担架に近付いて行くと、「どいて」と消防の人と言われ、救急車に乗ることが出来ないと思い乗らなかった。 <p>○ 消防隊による中洲にいた 15 名の子供の健康状態確認後、流されていた一君、「ちゃんは病院の診察が必要ということで、もう一台救急車を呼び、篠田が付き添い村上記念病院に搬送された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急車が到着するまでは、篠田は、消防車内で 2 人に毛布を掛け励ましながら救急車が来るのを待つ。救急車到着後、救急車の中では、熱を測ったり、救急隊の方による問診や子供の様子を観察したりしていた。2人とも座ったままで病院に向かう。 ・病院に着いた時には、ミ君のご両親と、ちゃんのおばさんが待っていた。一人ずつ診てもらうことになり、昂矢君から診察が始まる。擦り傷があったため消毒してから手当てを受ける。ご両親も一緒に診察室に入り医師から説明があった。次にちゃんがおばさんと一緒に診察室へ入る。長い間流されていたので水を飲んでいることが疑われ、レントゲンを撮るが、大丈夫という結果であった。 ・2人の診察が終わり、何か異常があれば病院に来て下さいとのことであった。その後、駆けつけたミちゃんのご両親と一君のご両親に簡単な説明をし、お詫びをした。 ・篠田は、救急車の方にお願いしてふれあいの里にいる村上に連絡をとり、2人の事を報告した。その電話で慎之介君の救急車に教員が乗り合わせていないことが分かったため病院から園に戻り、慎之介君が運ばれた県立病院へ向かう。 <p>○ 村上がり吉川慎之介君の保護者に「慎之介君が鉄砲水で流され救急車で運ばれた」旨電話連絡</p>
-------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・篠田が病院に到着し、慎之介君がいる場所まで行くと、お母さんと保護者の方2名がおられた。慎之介君について、「お母さんが来るのを待って、お母さんの声を聞いて安心したのか、そのまま亡くなりました。」と聞き、「申し訳ありませんでした。」と土下座をしてお詫びすることしか出来なかつた。 ・篠田は慎之介君が亡くなつたことを伝えるため幼稚園に電話を入れるが、ずっと話し中で繋がらなかつた。 ・しばらくして、村上が病院に到着する。慎之介君のことを報告する。 ・中洲にいた15名のうち、残りの13名の子供は、中洲から2回に分かれて消防隊と警察の方に背負つてもらい、パトカーにてふれあいの里施設に移動した。近藤園長もこの子供達と一緒にふれあいの里に移動する。
16:43	<ul style="list-style-type: none"> ○ これ以上お泊り保育は出来ないと判断し、母の会会長に連絡を取り、「石鎚ふれあいの里」までの迎えを連絡網で回すようにお願いした。 ・中洲に取り残された子供達が順々に戻り、着替えをさせ、不安や心配の声が出ていたので気持ちを落ち着かせるために、声掛けをし続けた。 ・28名の子供達が施設内に戻った時点で、警察から子供への事情聴取が開始。(名前・住所・電話番号・流された子供の状況などの聴取) ・聴取が終わった子供から荷物を置いてある部屋に戻り、紙芝居、じゃんけん、走りっこなどして保護者の迎えを待っていた。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 警察から西条聖マリア幼稚園へ「ちゃんが流された。」と連絡を受ける。
16:50	<ul style="list-style-type: none"> ○ 西条聖マリア幼稚園美濃事務員が、学園本部大西事務員に「ちゃんが流された。」旨の事故第一報を連絡する。 ○ 本部大西事務員は、警察からの連絡内容を理事長へ連絡するとともに、愛媛県私学文書課に事故発生を連絡する。 <ul style="list-style-type: none"> ・美濃事務員から連絡を受けた大西事務員は、美濃事務員に「幼稚園で待機するよう指示した。 ○ 西条聖マリア幼稚園美濃事務員が、村上から、「ちゃんは無事、(慎之介君以外は)全員いる。保護者の方へ現地まで迎えの連絡済」の連絡を受け、学園本部へ連絡する。
17:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各家庭の保護者が迎えに来て、受け渡しを始める。
19:00	

20:00	<ul style="list-style-type: none"> ○ 28名保護者への受け渡しが完了した。 ○ 美濃事務員は、学園本部大西事務員へ吉川慎之介君が亡くなられたことを連絡する。 <ul style="list-style-type: none"> ・午後8時頃寺西、越智が県病院に着くと、数名の保護者と吉川優子さんがいた。寺西、越智は土下座して謝罪。保護者から椅子に座るよう勧められ、待合室で待つ。 ・園長が病院に着く。慎之介君に対面させてくれるとのことでの寺西、越智、園長の3人が枕元に行く。変わり果てた姿を見、「ごめんね。ごめんね。」と手をさすりながら謝る。しばらくして、「2人にさせてあげて欲しい。」と保護者の方に言われ待合室で待つ。11時すぎ頃病院に吉川豊さんが到着する。病院にいた教員は玄関先で頭をさげ謝る。1時間ほどして保護者の車に慎之介君を乗せ自宅に連れて帰るのを見送る。
22:00	

※ 増水前後の教員の動き

○ 近藤恵津子（元園長）

- ・着替えて部屋を出た時は、体操等していた園児達は誰もおらず、園児達の部屋を見ると荷物が散らばっていたので隅の方に寄せて片付けた後の5分遅れぐらいで川へ行った。
- ・階段へ下りて行くと園児達の履物が脱いであり、子供達は、もう中洲の方に行って水に入っていた。
- ・階段から川を降りた前方の川の中央付近の大きな岩の前に立ち、「ここから後ろにはいかない様に」と言って初めから終わりまで同じ所に立っていた。
- ・水の深さは、約50cmで膝上ぐらいであり、流れは穏やかで、水の色の変化等気付かず、その上流で子供達は楽しく遊んでいた。
- ・越智先生の「上がりましょう」という合図で、近くで遊んでいた4～5人の子供が目の前を通り階段の方へいった。階段の所には誰も先生が居なかつたので、直ぐ後を追って階段の上に上がった時、突然、水かさが増してきて、流れも速くなった。
- ・別宮先生が直ぐ後ろから何人かの子供を連れて階段の所に来たので、そこに居たお客様と一緒に子供達を引き上げた。
- ・次に、越智先生が子供を何人か連れ階段の方に来ていたが、流れが速く流されて激流にのみ込まれたので、自分も飛び込んだが激流の中で流され、誰も助けることが出来ず中洲に上がった。

○ 寺西香代子（元教諭）

- ・川の下見を行い村上主任、越智先生に報告し、体操、諸注意を聞いた園児はグループごとに並んでいたので、自分の担当するさくらグループについて川へ下りる。
- ・石段を下り、川を渡って中洲へ行くが、そこで、微熱につき入水できない園児（ちゃん）やお泊り保育に不安を抱いていた園児（ちゃん）、川岸での遊びに興味を持った園児らの川岸でのおたまじやくし探し、石探し、石積等の遊びを見守っており、水遊びの間はほとんど移動していない。
- ・越智先生の合図で周囲に居た子供と共に川岸から階段の方へ向かって川を渡り始める。渡り始めて間もなくして、流れが速くなり、直ぐ側にいた園児み、う）二人の手を引き進もうとするが、なかなか進めず引き返すことに決める。近くの岩に「」を押し上げ、まず、「」を岸へと岩伝いに渡し、続いて「」を渡し安全を確保した。
- ・ちょうどその頃、別宮先生の「流された。走って。」という声が聞こえ下流に目をやると、流されていく二人の姿が見えた。

○ 村上玲子（元主任）

- ・川には、列の最後の方から子供達の間に入り、上流・中流・下流と川を分けると中流あたりで子供達と遊んでいた。
- ・川の中では、女の子と、手を繋いで子供の胸あたりの所まで行って帰ってきたりを何回か、違う子供達と手を繋ぎ替え、繰り返していた。また、男の子と一緒に手を持って泳がせたり、1メートル程の距離を子供が私に向かって泳いでくるのを繰り返したりした。それから、水の中に魚が泳いでいるのが見え、水の中にじっと立って魚を見たりもしていた。
- ・その後、対岸側に上がり、何人かの子供達と、丸い石や四角い石、ハート型の石等いろいろな形の石探しをした。また、男の子何人かが、ふれあいの里側の石垣を登り飛び込み始め、近付き見ていたが、危ないのでやめるよう注意し、1回だけしたら終わりと伝え、子供達に対岸側に戻るよう伝えた。
- ・スイカ割りの準備をする為、藤井先生に時間を開いた後（15:29）、別宮先生と石川先生が近くにいたので声をかけ、越智先生にも先に上がることを伝え上がった。また、園長先生には、前を通る時に上がることを伝えた。
- ・体操をした宿舎前の広場でスイカ割りの準備をしていると（15:30）、近くにいた近所の方が、「今日は工事の水が3時30分に流れるって・・・」と言われた。川を見ると波のような水が見え危険を知らせるため叫ぶが川の水の音にかき消されて声が届かず、走って川に向かった。（川の水の量が増えたのは分かつたが、水の色の変化には気がつかなかった。）

○ 別宮瑠美（教諭）

- ・越智先生の指示の元、子供達は水着に着替え、ふれあいの里の広場に集まり、準備体操をしたり、注意事項を聞いたりしており、私は、荷物の移動などで宿舎を出たり入ったりしており、準備体操の後半に合流した。
- ・その後、越智先生を先頭に川の方へ移動したので、全員に虫除けスプレーをかけ、後ろからついて行った。だいたい各グループ順（ほし、リボン、ピカチュウ、さくら）に川へ入って行ったが、全員階段のところにサンダルを脱ぎ、子供達は3～4人ずつ川を渡り、その間に先生達が入って手を貸したり、滑らないよう気を付けてと声をかけたりしながら援助した。
- ・私の近くには、村上先生、石川先生がいたと思うが、左岸までくると足元は砂利で浅瀬であった。後方からついて行くと、下見をして遊ばせようとした場所は大きな石があり、滑って頭を打ってもいいという事で、先頭の越智先生や子供達はUターンしてきて例年遊んでいるあたりで水遊びを開始した。
- ・下流には園長先生が、全体の様子を監視しており、私は、子供達と一緒に石積したり、おたまじやくしを捕まえたり、水を掛け合ったり、手を引いてバタ足をしたりした。
- ・15時29分にスイカ割りの準備の為、村上先生が一足先に上がったが、その頃、川には、ほとんど子供達は入っておらず、寒そうにしている子も多く、予定よ

り早いけどそろそろ上がろうかということになり、全体で元来た階段の方向へ移動し始めた。

・私は3～4人の子供達（　くん、　ちゃん）と手を繋いで移動したと思う。とともに移動した。その時、上流の方の岩の間から茶色い水が見えた。おかしいと思い、急いで上がるよう子供達に伝え、近くにいた園長とふれあいの里に来ていたお客さんと共に子供達を岸に上げた。その頃には、増水しており、私の後から来ていた越智先生の周りにいた子供の内、　ちゃんを引き上げたが、越智先生と子供達は下流に流された。

○ 篠田ひとみ（教諭）

- ・ふれあいの里の広場で準備体操して、越智先生からの諸注意を聞いた後川まで移動し、石段の上でサンダルを脱ぎ、脱げた子供から順番に川に入って中洲まで行く。足元が滑りやすい所もあるため教員が所どころに配置し子供達を誘導する。
- ・下見をしてもらった場所へ行くが、石が多く、転んで頭をぶつけてもいいないので、再検討し、例年遊んでいる場所で水遊びをすることとなり移動する。
- ・水遊びが始まった頃は、上流に越智先生、下流に園長先生がいて、その間に篠田、別宮、村上、石川が川の中に配置し、河川敷には寺西先生、藤井先生が居たと思う。中間配置の順番は定かではないが、私はカメラを担当していた為、遊び始めた時は、2～3人ずつ順番に写真を撮っていった。
- ・一通り撮ったくらいに、一度中洲の岩にカメラを置き、水が膝辺りの所まで川に入り、子供達と水を掛け合ったり、座って見たり、水の中の石を拾ったりして遊んでいた。しばらくすると、寒くなり、ほとんどの子供が中洲へ上がり水たまりにいるおたまじやくしをすくったり、石を並べたり、川に石を飛ばしてみたりする遊びに移って行った。
- ・その頃、「少し予定より早いけれど、そろそろ上がりましょう。」という越智先生の指示で、岸へ向かって歩き始める。その時、上流の方で茶色い水が見え、中洲においていたカメラを走って取りに行き、また、列に戻り歩き始めた。私の前には、園長先生、別宮先生、越智先生、石川先生が居たと記憶している。
- ・カメラを取りに戻って帰ってから10歩程歩いた時、階段近くの子供の「こわい」という声を聞いたが、その時は、水が増え川が一変していたので、私の後ろから来ている子供達に、「戻って、戻って、上がって、上がって。」と叫んだ。子供達を河川敷に戻らせた後、私は、前の子供を助けなきやと思い川の中に残っていると、別宮先生の「子供が流された。行って。」と言う声が聞こえ、見ると、白っぽいワンピースの子供と緑色のキャップをかぶった子供が見えたので、一度河川敷まで戻り、そこに居た藤井先生にカメラを渡し、流された子供の方へ走って行った。

○ 越智亜里（教諭）

・14:45 頃

施設前で体操を終え、ピカチュー、リボン、星、さくらのグループ順で川に向かう。階段の所でサンダルを脱ぎ、園児の間に教員が入り階段を下りるのを援助しながら川に入る。私が先頭に行き、歩きやすい所を園児に指示しながら中洲に向かう。

・14:55 頃

上流側の階段より上の場所に先頭グループは到着する。（越智、篠田、寺西、村上、藤井）は大体傍にいた。園児の一人が苔がついた石で転んだことを傍にいる教員に伝え、水遊びの場所を検討し、例年遊んでいた場所でよいか園長に確認し、少し下側へ下りた。

・15:00 頃

教員に水に入つてもらい大体遊ぶ位置を示し園児に「越智先生より上流に行かないこと、園長より下流に行かないこと、先生の周りで行動すること、川の中に立っている先生より先へは行かないこと。」等を園児に伝えた。先生達の立つ位置は、上流側から越智、篠田、別宮、藤井、村上、石川、園長の順ではなかつたかと思う。私と園長の場所は確実だが、他の先生の位置は、はっきりとは分からぬ。

川の中での園児達は、ワニのようにして遊ぶ子、教員に両手を持ってもらいバタ足をする子、中洲でおたまじやくしを見つけ集めて遊ぶ子、右岸の壁に歩いて行きタッチしに行く子等様々でした。主に私は、上流側で全体を見て、壁タッチしている園児に行かないよう注意を促したり、水を掛け合ったりし全体を見るよう心掛けた。

・15:15 頃

園児の半数以上が中洲で石積をしたり、おたまじやくし取りをしたりしているのを見ていた。園児の動きに合わせて各教員は臨機応変に対応していた。大体の持ち場を離れる時は傍の教員に頼んでいた。園長は、下流でその場を動かず園児や全体を監視していた。

・15:25 頃

川に入っている園児が7～8人程度になり、他の園児は寒がり、太陽で温かくなつた大きな岩に体を付けたり、唇が青くなり震えていたりしていた。

・15:29 頃

私は、藤井先生に時間を確認し、村上先生にスイカ割りの準備の事を言いに中流位まで下流に下った。村上先生も時間を気にしており、状況を見て、直ぐ川から上がり準備しに行く。

園児は、ほぼ川に入つておらず、寒がっていたので、時間は予定より少し早いが川から上がるよう提案し、全教員に伝え、私は、周囲にいる園児4～5人を連れ階段の方に向かつた。全体を見ると園児の間に教員が散らばり配置出来ていたので、特に、上がる時の指示はしていない。園長、別宮、越智、篠田の順

で川から上がろうとする。その時、茶色い水を見ていつもと水の色が違い異変を感じたので、子供達に早く上がるよう叫ぶ。

- ・15:30頃

流される。

○ 藤井さおり（助教諭）

- ・水着に着替えた園児が順番に出てくるのを広場で待ち、一緒に体操をし、注意事項を聞いた後、階段の所でサンダルを脱ぐのを援助し川に下りたが、その時も、階段から川に入るところで園児の手を持ち安全に川に入れるように援助した。（越智先生に、時間確認の為携帯電話を持つように依頼され所持）
- ・川に入ってからは、数人と中洲に渡ったが、誰と一緒にだったかは覚えていない。
- ・川の中では、中流辺りで、中洲と川の真中辺りまでを行ったり来たりしながら、園児と遊んだり、写真を撮ったりしたが、誰とまでは覚えていない。
- ・越智先生に時間を聞かれたので、携帯電話で確認して3時29分と伝えると、村上先生は「スイカ割りの準備に上がります。」と言って上がりました。
- ・越智先生の「上がりましょう」との合図で川を渡り始めたが、一番最後であり、その時周りにも子供達は居ましたが誰が居たかは覚えておらず、手を繋いだのは「ちゃん、くん」の二人。その場所は、地面の上かちょっと足がかかる位のところであり、列が進まず待っていると、水の流れが速くなり、増えているのが分かりました。
- ・そして、次第に強く激しい感じになりだしたので、子供に高い所に上がるよう言っていると、後で思い出すと、ふれあいの里のスタッフの方に「もっと上がって、」と声をかけられた記憶があります。
- ・越智先生や子供達が流された時は、見ており、不安そうにしていた子と一緒にいたが、別宮先生に、「流れたから走って」と言われて、残った子供達は高い所にいたから、助けに行かないといけないと気付き下流に走った。

○ 石川正子（助教諭）

- ・準備体操後、一列になり川へと向かう。私は、後ろに並んでいる子供達と一緒に川へ向かう。階段が急なため、子供が転ばないように補助に入る。
- ・川遊び開始、私の立ち位置は、下流側で村上先生の横に立っていた。
- ・川では、子供達が遊ぼうと誘ってきたので、浮いて遊んだり、浮いた体を引っ張ったりして遊んだ。水深は大人の膝上ぐらいだったと思う。誰と遊んだかまでは覚えていない。

子供の様子を見ながら岸に上がり、冷えた体を温めたりしていると、直ぐに、違う子供が川に入りたいと言ってきたので一緒に入り、浮いたり、ワニ歩き等して遊んだ。

- ・自分がどこの位置にいたかは覚えていないが、越智先生の「上がりましょう」の合図で、越智先生の後について宿舎側に向かった。

川を渡り始める時、近くにいた子供は、「 き、 き、 」がおり、先生達の位置は、私の前を越智先生、別宮先生、園長先生でしたが、後ろの先生は分かりません。

- ・川を渡っている途中、岩の近くに来たら、近くにいた子供が穏やかな水の流れに押されて行っていたので、自分の近くに引き寄せたが、水の流れは少しづつ早くなっており、自分自身耐えられる流れではあったが、このままではいけないと思った。
- ・岩に着いたころには、子供にとっても大人にとっても流れはきつくなっていた。越智先生が流される瞬間は見たが、子供が流される姿は見ていない。自分の体が岩から離れそうになつたりしたが、態勢を元に戻すことに必死で助けを求めており、気付いたら首の後ろにロープがあり、岩の上にいた「 」と近くにいた5名の子供の中に泣いている子もいたので、「私につかまついたら大丈夫、先生の顔見てて、向こうに連れて行ってあげるからね。」等と声をかけながら、子供にロープを持たせ私も一緒に引き上げてもらった。

増水前後の教員の位置関係

乙第 15 号証

1 川へ入った時の位置（増水前の状況）

(1) 先生達の説明状況（石川先生以外）

① 近藤恵津子

下流側階段



⑥ 篠田ひとみ

④ 寺西香代子

② 村上玲子

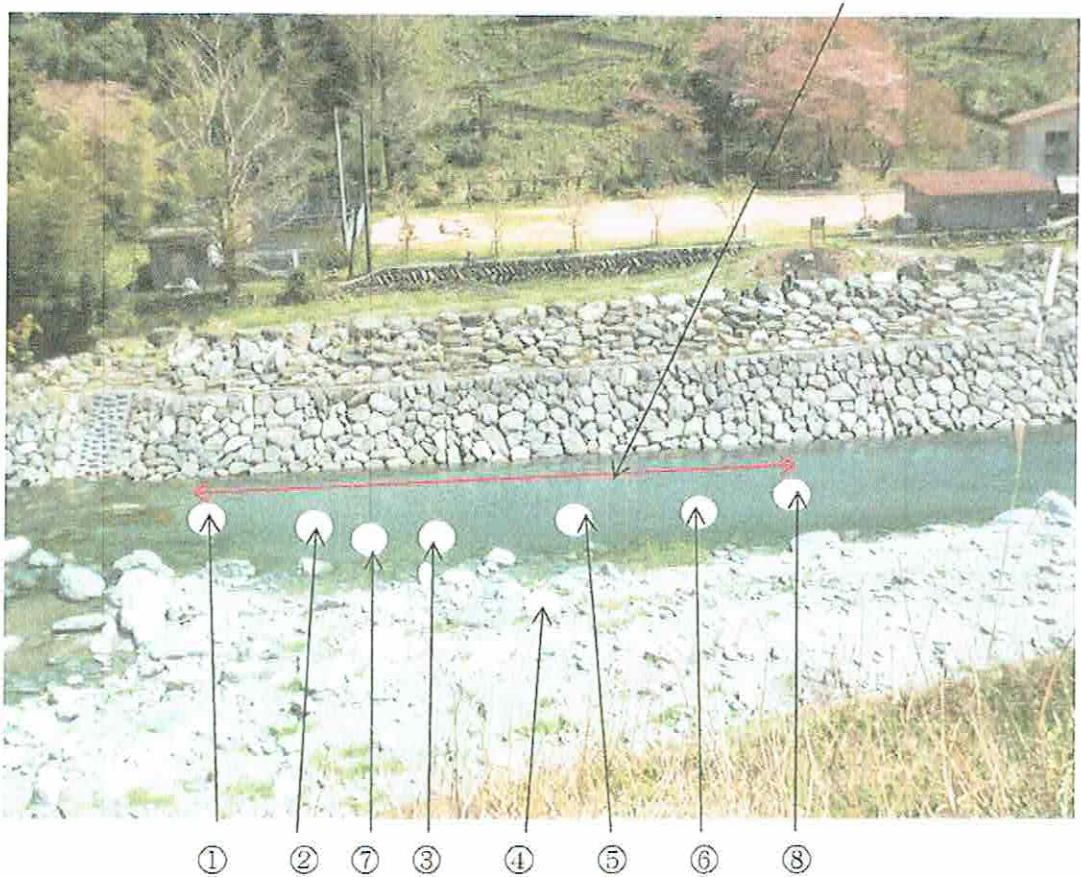
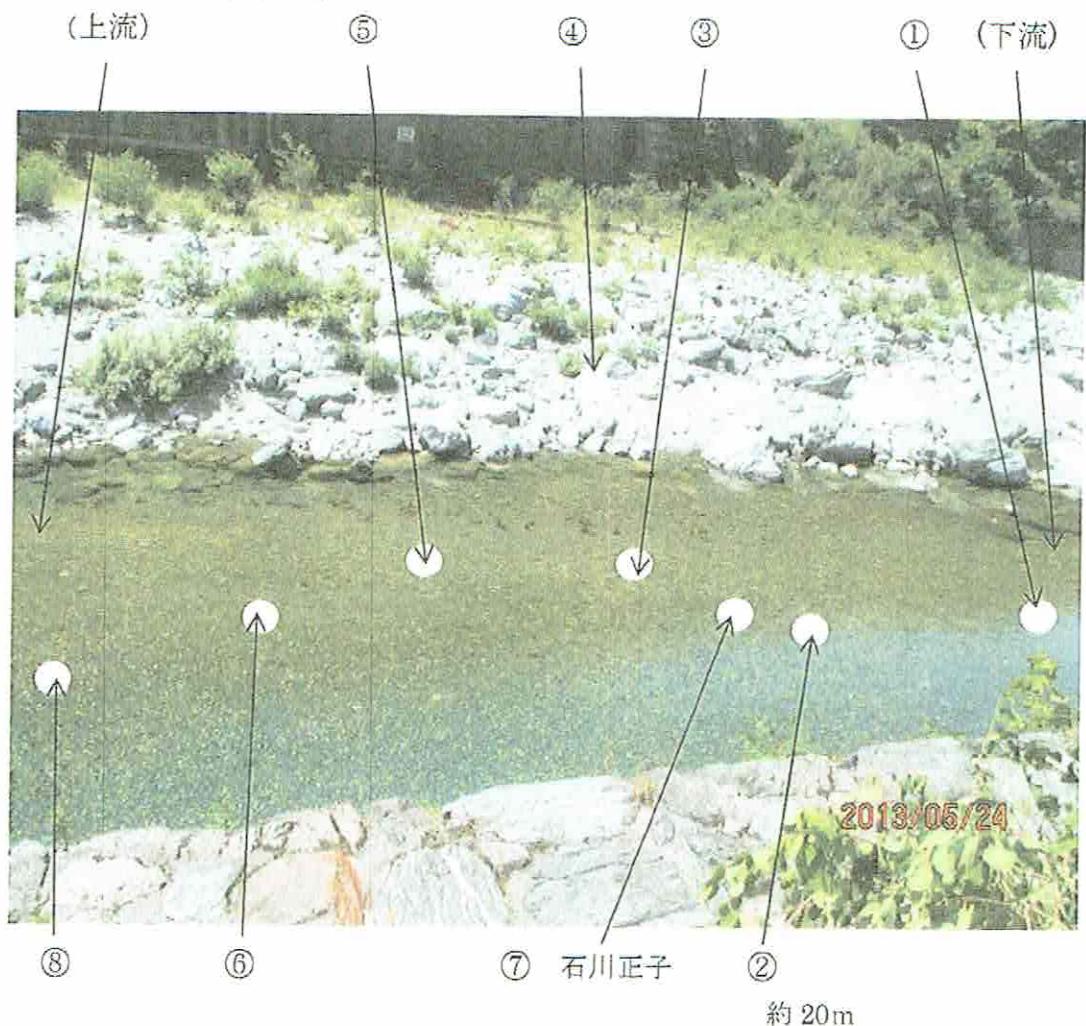


③ 越智亜里

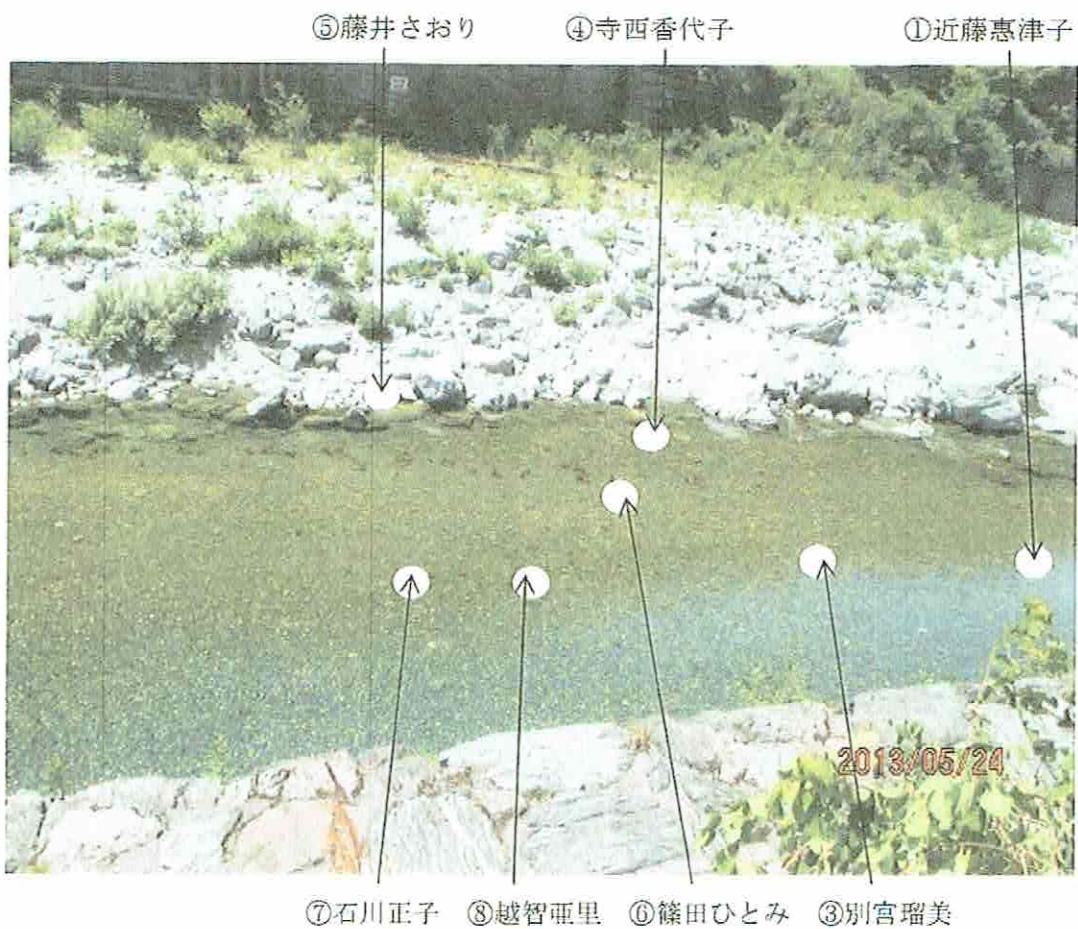
⑤ 藤井さおり

③ 別宮瑠美

(2) 川の中の位置状況



2 越智先生の合図で川を上がろうとした時の位置



3 増水し越智先生が流された時の位置





※ 園児の脱出・救出状況（園児 31名）

1 越智先生の合図で川を上がろうとした時

- ① 岸近くにいた「　　ま (マ　　き)、　　君 (　　)、　　君 (　　)、　　君 (　　)」の4名が岸に上がる。
- ② 別宮先生は、園長、ふれあいの里に来ていたお客様4人の内2人とともに、「　　君 (　　)、　　君 (　　)、　　君 (　　)、　　君 (　　)」の4名を岸に上げた。
- ③ 越智先生は、「　　うやん (　　)、　　君 (　　)、　　君 (　　)、　　君 (　　)、　　君 (　　)」を連れて階段下へ行く。その内、「　　うやん (　　)」を別宮先生が岸へ引き上げる。
- ④ 中洲から篠田先生と先頭に渡りかけていた「　　君 (　　)、　　君 (　　)」の8名と寺西先生を挟み、「　　ちゃん (　　)、　　ちゃん (　　)、　　ちゃん (　　)、　　ちゃん (　　)」の2名、藤井先生と一緒に「　　ちゃん (　　)、　　君 (　　)」の2名の合計12名は、中洲に引き返す。

2 増水し越智先生が流された時

- ① 越智先生と「吉川慎之介君 (よしかわしんのすけ)、　　君 (　　)、　　ちゃん (　　)、　　ちゃん (　　)」の5名が流された

が、越智先生は、「君()」を岩の上に押し上げた後、再び流され深みに入り、「吉川慎之介君(よしかわしんのすけ)、ちゃん()」の手が離れた。越智先生は、「ちゃん()」の水着を持ち、水面に顔が出るように差し上げつつ泳ぎ浅瀬に着いた。

- ② 岸から1.5メートル先の大きな岩付近で石川先生にしがみついている君()、君()、うやん()、ちゃん()、ちゃん()やん()の6名をロープで岸に引き上げ救出。
- ③ 流れる「 ん()」は岩につかり、救出し中洲に移動。
- ④ 吉川慎之介君(よしかわしんのすけ)は、約400メートル下流で発見。